

貸借対照表(審査等勘定)

(平成28年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	金 額		科 目	金 額	
資産の部			負債の部		
I 流動資産			I 流動負債		
現金及び預金		14,761,861,726	預り補助金等		22,377,726
仕掛審査等費用		1,430,428,089	未払金		2,690,187,897
前払費用		7,778,566	前受金		8,803,457,251
未収金		342,364,001	預り金		107,067,827
流動資産合計		16,542,432,382	リース債務		30,650,990
			引当金 賞与引当金	497,189,217	497,189,217
			流動負債合計		12,150,930,908
II 固定資産			II 固定負債		
有形固定資産			資産見返負債		
工具器具備品	2,673,432,285		資産見返運営費交付金	108,191,348	
減価償却累計額	△ 1,310,843,328	1,362,588,957	資産見返補助金等	522,766,246	
建物附属設備	31,320,000		資産見返物品受贈額	115,940	631,073,534
減価償却累計額	△ 150,902	31,169,098	長期リース債務		31,441,684
建設仮勘定		451,299,600	引当金 退職給付引当金	1,660,502,407	1,660,502,407
有形固定資産合計		1,845,057,655	固定負債合計		2,323,017,625
無形固定資産			負債合計		14,473,948,533
ソフトウェア		4,585,627,675	純資産の部		
ソフトウェア仮勘定		1,011,782,800	I 資本金		
無形固定資産合計		5,597,410,475	政府出資金		1,179,844,924
投資その他の資産			資本金合計		1,179,844,924
敷金		13,272,360	II 資本剰余金		
投資その他の資産合計		13,272,360	資本剰余金		4,670,640
固定資産合計		7,455,740,490	損益外減価償却累計額(△)		△ 670,455,915
			損益外固定資産除売却差額(△)		△ 98,706,116
			資本剰余金合計		△ 764,491,391
			III 利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金		6,797,996,742
			積立金		932,934,057
			当期未処分利益		1,377,940,007
			(うち当期総利益)		(1,377,940,007)
			利益剰余金合計		9,108,870,806
			純資産合計		9,524,224,339
資産合計		23,998,172,872	負債・純資産合計		23,998,172,872

## 損益計算書(審査等勘定)

(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位:円)

科 目	金 額		
経常費用			
審査等事業費		3,668,141,458	
安全対策等事業費		1,510,770,898	
その他業務費			
人件費	5,759,424,300		
減価償却費	1,605,169,945		
退職給付費用	△ 12,340,776		
賞与引当金繰入	325,954,369		
不動産賃借料	1,443,908,777		
その他経費	71,324,266	9,193,440,881	
一般管理費			
人件費	738,741,725		
減価償却費	223,513,540		
退職給付費用	6,638,930		
賞与引当金繰入	54,715,046		
不動産賃借料	254,530,644		
その他経費	881,159,186	2,159,299,071	
財務費用			
支払利息		2,117,249	
雑損		23,000	
経常費用合計			16,533,792,557
経常収益			
運営費交付金収益		1,321,978,520	
手数料収入		10,884,792,885	
拠出金収入		2,957,768,900	
補助金等収益		321,956,000	
その他の受託業務収入		132,286,771	
資産見返運営費交付金戻入		18,673,172	
資産見返補助金等戻入		144,705,446	
資産見返物品受贈額戻入		33,148	
雑益		25,137,157	
経常収益合計			15,807,331,999
経常損失			△ 726,460,558
当期純損失			△ 726,460,558
前中期目標期間繰越積立金取崩額			2,104,400,565
当期総利益			1,377,940,007

## キャッシュ・フロー計算書(審査等勘定)

(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位:円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
審査等事業費支出	△ 3,730,214,111
安全対策等事業費支出	△ 1,508,643,855
人件費支出	△ 6,839,519,637
補助金等の精算による返還金の支出	△ 29,773,958
その他の業務支出	△ 2,832,612,856
運営費交付金収入	1,268,297,000
補助金等収入	430,523,000
手数料収入	11,681,827,234
拠出金収入	2,957,766,900
その他の収入	137,415,579
その他の受託業務収入	170,391,748
小計	1,705,457,044
利息の支払額	△ 2,117,249
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,703,339,795
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 515,559,000
無形固定資産の取得による支出	△ 1,662,821,770
敷金の支払による支出	△ 4,558,200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,182,938,970
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△ 34,738,051
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 34,738,051
IV 資金増加額	△ 514,337,226
V 資金期首残高	15,276,198,952
VI 資金期末残高	14,761,861,726

利益の処分に関する書類  
(審査等勘定)

(単位:円)

項 目	金 額	
I 当期未処分利益 当期総利益	1,377,940,007	1,377,940,007
II 利益処分額 積立金	1,377,940,007	1,377,940,007

## 行政サービス実施コスト計算書(審査等勘定)

(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

(単位:円)

科 目	金 額		
I 業務費用 (1) 損益計算書上の費用 審査等事業費 安全対策等事業費 その他業務費 一般管理費 財務費用 雑損	3,668,141,458 1,510,770,898 9,193,440,881 2,159,299,071 2,117,249 23,000	16,533,792,557	
(2) (控除)自己収入等 手数料収入 拠出金収入 その他の受託業務収入 雑益 業務費用合計	△ 10,884,792,885 △ 2,957,768,900 △ 132,286,771 △ 25,137,157	△ 13,999,985,713	2,533,806,844
II 損益外減価償却相当額			11,515,254
III 引当外賞与見積額			12,246,706
IV 引当外退職給付増加見積額			55,007,526
V 機会費用 政府出資又は地方公共団体出資等 の機会費用			0
VI 行政サービス実施コスト			2,612,576,330

## 注 記

### I. 重要な会計方針

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（平成27年1月27日改訂）並びに「独立行政法人会計基準及び独立行政法人会計基準注解に関するQ & A」（平成28年2月改訂）（以下、独立行政法人会計基準等という）を適用して、財務諸表等を作成しております。

ただし、「独立行政法人会計基準」第43（注解39）の規定については、「独立行政法人通則法の一部を改正する法律」の附則第8条により経過措置を適用していることから、経過措置終了まで、現行セグメント区分に基づくセグメント情報の開示を行っております。

また、「独立行政法人会計基準」第81（注解60、注解61）の規定については、経過措置を適用していることから、改訂前の第81（注解60）を適用しております。

#### 1. 運営費交付金収益の計上基準

収益化単位の業務及び管理部門の活動ごとの見積り費用と実績費用の管理体制を構築することに一定の期間を要するため、経過措置を適用し、費用進行基準を採用しております。

#### 2. 仕掛審査等費用の評価基準及び評価方法

個別法による低価法によっております。

#### 3. 減価償却の会計処理方法

##### (1) 有形固定資産

##### ① リース資産以外の有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

工具器具備品	2年～18年
建物附属設備	15年～22年

また、特定の償却資産(独立行政法人会計基準第87)の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除して表示しております。

##### ② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

##### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間(5年)に基づいております。

#### 4. 賞与に係る引当金及び見積額の計上基準

役員等々の翌期賞与支給見込額のうち当期発生分を計上しております。

ただし、当該支給見込額のうち、運営費交付金及び国庫補助金により財源措置がなされる分については、引当金を計上しておりません。

5. 退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準

役職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、発生の翌事業年度に一括償却することとしております。ただし、運営費交付金により財源措置がなされる額については、退職給付に係る引当金を計上していません。

(会計方針の変更)

改訂後の独立行政法人会計基準等を当事業年度より適用し割引率の決定方法を職員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。なお、これによる当該事業年度の損益及び行政サービス実施コストへの影響はありません。

6. 行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

平成 28 年 4 月 1 日付け事務連絡「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を受けた平成 27 事業年度財務諸表における行政サービス実施コスト計算書の機会費用算定の取扱いについて(留意事項)(総務省行政管理局、財務省主計局法規課公会計室)に基づき、0%で計算しています。

7. リース取引の処理方法

リース料総額が 300 万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

リース料総額が 300 万円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

8. 消費税等の会計処理

税込方式によっております。

**II. 注記事項**

1. 貸借対照表注記

(1) 金融商品の時価等に関する注記

① 金融商品の状況に関する事項

預金は、決済用預金としております。

② 金融商品の時価等に関する事項

決算日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：円)

区 分	貸借対照表 計上額 (*)	決算日における 時 価 (*)	差 額
ア. 現金及び預金	14,761,861,726	14,761,861,726	0
イ. 未払金	(2,690,187,897)	(2,690,187,897)	0

(\*) 負債に計上されているものは、()で示しております。

(注) 金融商品の時価の算定方法

ア. 現金及び預金

時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

イ. 未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (2) 引当外賞与見積額  
 運営費交付金及び国庫補助金から充当されるべき賞与の見積額 72,470,491 円
- (3) 引当外退職給付見積額  
 運営費交付金から充当されるべき退職手当の見積額 73,305,585 円

2. 損益計算書注記

- (1) 審査等事業費は、医薬品、医療機器等の承認審査等事業のために要した費用であり、謝金、旅費、事務庁費等で構成されております。また、安全対策等事業費についても、医薬品、医療機器等の安全対策事業のために要した費用であり、謝金、旅費、事務庁費等で構成されております。
- (2) 手数料収入は、医薬品等の承認審査業務を行うための財源として、承認申請者から納付される収入であります。
- (3) 拋出金収入は、安全対策業務を行うための財源として、医薬品等の製造販売業者から納付される収入であります。

3. キャッシュ・フロー計算書注記

資金期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金	14,761,861,726 円
資金期末残高	14,761,861,726 円

4. 行政サービス実施コスト計算書注記

引当外退職給付増加見積額には、国からの出向役職員にかかる 45,927,200 円を含んでおります。

5. 資産除去債務注記

当機構は、不動産賃貸契約に基づき、事務所退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の実質的な使用期間は明確ではありません。

従って、当該債務の履行時期を予測することは困難であり、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

6. 退職給付引当金注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

当機構は確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。

(2) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：円)

区 分	平成 27 年 4 月 1 日 ～28 年 3 月 31 日
① 期首における退職給付債務	1,478,329,552
② 勤務費用	194,901,679
③ 利息費用	14,522,549
④ 数理計算上の差異の当期発生額	404,550,763
⑤ 退職給付の支払額	△27,251,373
⑥ 期末における退職給付債務 (①+②+③+④+⑤)	2,065,053,170

(3) 退職給付債務と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：円)

区 分	平成 28 年 3 月 31 日現在
① 退職給付債務	2,065,053,170
② 未認識数理計算上の差異	△404,550,763
③ 退職給付引当金 (①+②)	1,660,502,407

(4) 退職給付に関連する損益

(単位：円)

区 分	平成 27 年 4 月 1 日 ～28 年 3 月 31 日
① 勤務費用	198,011,677
② 利息費用	14,795,689
③ 数理計算上の差異の費用処理額	△218,665,512
④ 運営費交付金で財源措置された費用	156,300
⑤ 退職給付費用 (①+②+③+④)	△5,701,846

(注) 他の機関からの出向者にかかる退職給付費用の負担分として①勤務費用に 3,109,998 円、②利息費用に 273,140 円をそれぞれ計上しております。

(5) 数理計算上の計算基礎に関する事項

区 分	平成 28 年 3 月 31 日現在
割引率	0.2%
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
数理計算上の差異の処理年数	1 年
	数理計算上の差異は、発生 の翌事業年度に一括償却する こととしております。

**III. 重要な債務負担行為**

該当事項はありません。

**IV. 重要な後発事象**

該当事項はありません。